

8

焼酎製造工程への 氷蓄熱システムの導入

この焼酎工場では、これまで焼酎の蒸留時の冷却には地下水を使用していましたが、一担くみ上げられた地下水は季節によって水温が変わることから、水温が上昇する夏季には冷却時間や使用水量の増加が問題となっていました。

そこで、氷蓄熱式冷却システムを導入することにより一定の水温が得られ冷却時間や使用水量も大幅に減少でき、一年を通じて安定した製品を作ることができました。

また、割安な夜間電力の利用によりランニングコストの低減も図ることができました。

改善効果

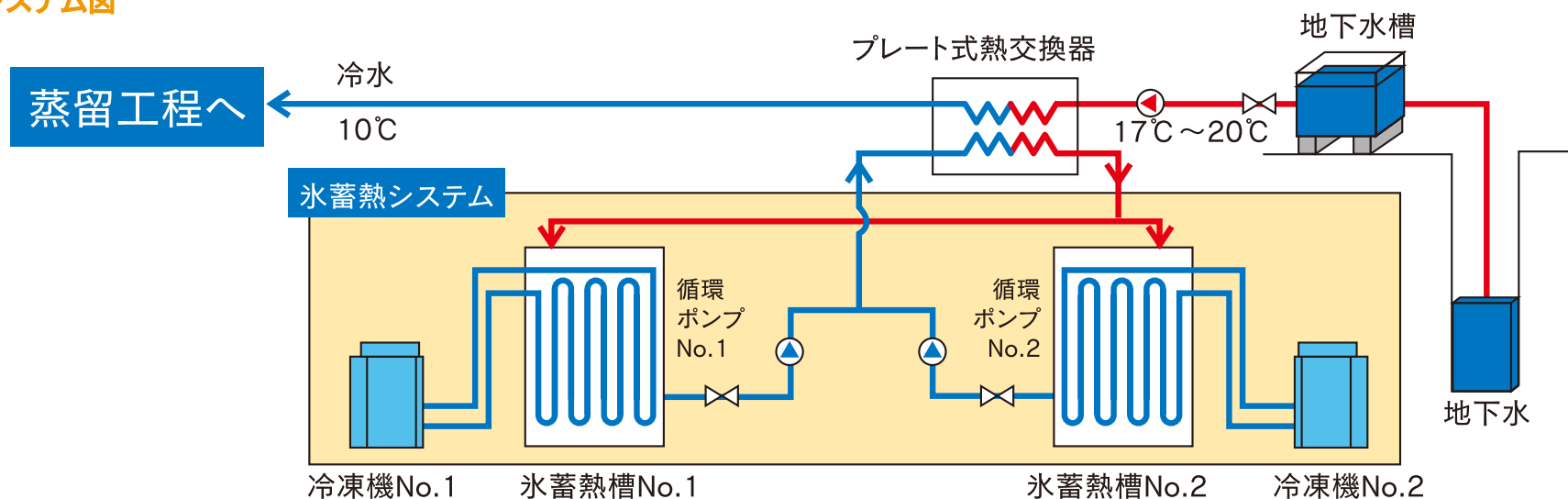
- ・一定水温に保たれた冷却水の安定供給による冷却時間及び使用水量の低減。
- ・年間を通じて安定した製品の製造。
- ・蓄熱調整契約^{*}による電気料金の割引。

設備概要

- ヒートポンプ： 42kW(能力)×2台
- 氷蓄熱槽： 3.4m³×2基

^{*}締結いただけるご契約(メニュー)の詳細につきましては各電力会社にご確認ください。

システム図



※これまでのパンフレットの事例はこちらのサイトでご覧いただけます。 <http://www.denki.or.jp/committee/energysaving>